

今週の相場はどうなる？ 今週の相場はどうなる？

作成者：山根亜希子

○10月21日～

先週はドル／円が 150 円まで上昇しました。

強い米国の経済指標が利下げのペースを遅らせるという予想が増えてきています。

確かに最近の指標の強さを見ると、9月に慌てて0.5%もの利下げをする必要があったのかと思ってしまうほどです。

また、インフレ再燃リスクもあるためコロナ前のようなゼロ金利政策という低金利になる可能性はほとんどありません。

オーストラリアはインフレの心配があるため利下げを見送っています。

米国以外の国も2-3%程度までは金利を下げて1%や0%まで下げる国はないと思います。

スイスと日本が1%程度の金利で、先進国の中では最も低金利状態になるのではないのでしょうか。

もともとスイスと日本は金利の低い国なので、この状態は特に不思議ではありません。

そうすると米国と日本の金利差は、3%程度はある状態が続くことになります。

FXでよく知られているキャリートレード(高金利通貨を買って、低金利通貨を売ることによってスワップ金利をもらう取引)は3%以上の金利差で活発になると言われています。

日米の金利差が1%ほどでは、米ドルを買って金利をもらおうという発想にはなりにくいですが。

日米の金利差が開いた状態がかなりの期間続くとすればドルを売るのを控える動きが出てきます。

ということで、ドル高要因になります。さらに、日本の利上げはかなり控えめに進むはずですが。

先週はユーロが利下げをしましたが欧州は次回も利下げするという予想が根強いですが。

金利差だけで通貨の強弱が決まることはありませんが各国の利下げの行方も気になります。

今週はカナダで政策金利の発表がありますが利下げ予想となっています。

そして、今のマーケットにとってのリスク要因は、政治(選挙)と地政学リスクです。

突発的なニュースで大きく相場が動くこともあるためリスク管理はいつも以上に気をつけておく必要があります。

27日が衆議院議員選挙の投票日となっています。

選挙まで残り1週間ということで、物価高(インフレ)抑制のため円安けん制発言があちこちから聞こえてくるかもしれません。

これまでの選挙では、ご祝儀相場になることも多かったのですが米国大統領選前ということもあり、日本より海外要因に目を向けておく必要があります。

先週、すでに日経平均は4万円を超えており、ドル／円も150円をつけたので、このあたりが天井となって来週以降、下げてくる可能性も想定して、慎重にトレードしていきたいです。

● テクニカルで見た重要ポイントは？

今週の相場はどうなる？ 今週の相場はどうなる？

<ドル/円>

ドル/円は 150.3円あたりまで値を伸ばしました。

ここを超えれば 8月1日高値の150.8円あたりが視野に入ってきます。

ただし、150円を超えてくると上昇余地は少なくなってきました。

あまり高いところを買わないように、下がってきたところだけ買う戦略の方が安全です。

急騰する場面があれば、試し売り(少額の売り)を考えてもよさそうです。

下値は、148.8円あたりのサポートを割り込むと 147円台まで下がってくる可能性があります。

146円台、147円台にもサポートが多くあるため 147円台あたりで下げ止まった場合は、買いのタイミングを狙っていきたいです。

147.3円程度を維持できれば、堅調な動きが期待できそうです。

<気になるクロス円>

クロス円は、先週は停滞してほとんど動きがないペアが多いです。

9月の米国のFOMCの後から続いた 1カ月程度の上昇相場がそろそろ終わる可能性があります。

ドル/円や株価が下がってくるとクロス円も下がりやすくなるため買いは様子見がよさそうです。

安値更新の動きが出れば、売りを狙ってみてもいいかもしれません。

*クロス円とは円との通貨ペアの総称:〇〇/円というような通貨ペアのことです。

<今週のファンダメンタル？>

日本では10月東京都区部消費者物価指数などがあります。

米国では9月景気先行指標総合指数、10月リッチモンド連銀製造業指数、9月中古住宅販売件数、米地区連銀経済報告(バージュブック)、前週分新規失業保険申請件数、10月製造業・サービス部門・総合PMI(速報値)、9月新築住宅販売件数、9月耐久財受注、10月ミシガン大学消費者信頼感指数などが発表されます。

欧州ではドイツとユーロ圏で10月製造業・サービス業PMI(速報値)、ユーロ圏でラガルド・ECB 総裁発言、ドイツで10月IFO企業景況感指数などがあります。

ほかにはカナダで政策金利の発表などがあります。